

CAGLIERO

カリエロ11 サレジオ会
宣教ニュース

N.128 - 2019年8月



サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



親

愛なる会員、友人の皆さん、

我らが愛する父ドン・ボスコの誕生日を迎えるこの月、7つ目の幸いが、教皇フランシスコの言葉と共にこだましますように：「平和を実現する人々は、幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」。「周囲に平和の種を蒔くこと、それが聖であるということです。」(『喜びに喜べ』89)

まさに、サレジオ会宣教師たちは休むことなく平和の種を蒔きます。多くの国々で、サレジオ会宣教師たちは平和の人、すべての人の友として知られ、愛されています。サレジオ会宣教師は、迫害や拒絶の大きな苦難の時、さまざまな試練のただ中にあっても、内なる平和を輝かせることができます。何よりも、特に教育を通して、平和の建設者となるよう、若者を育てることができます：「(宣教活動は) 本会の霊能(カリスマ)に固有な教育・司牧上の活動で、総力をあげて取り組むべきものである」(会憲第30条)。根深い民族的、宗教的、政治的分裂のために若者たちが共に暮らすことができない場で、サレジオのオラトリオの宣教の前線は、この一致と平和の奇跡を起こす力があります。南チャド、サールの私たちの宣教地で、あるイスラム武装勢力のリーダーが、尊敬と感謝をこめ、言ったことがあります。「ドン・ボスコのオラトリオはまるで国連のようだ」と。

周りに平和の種を蒔くこと・会員同士、若者たち、人々の間で：

これはサレジオ会宣教師の典型的な特徴なのです。

宣教顧問 ギジェルモ・バサニエス神父

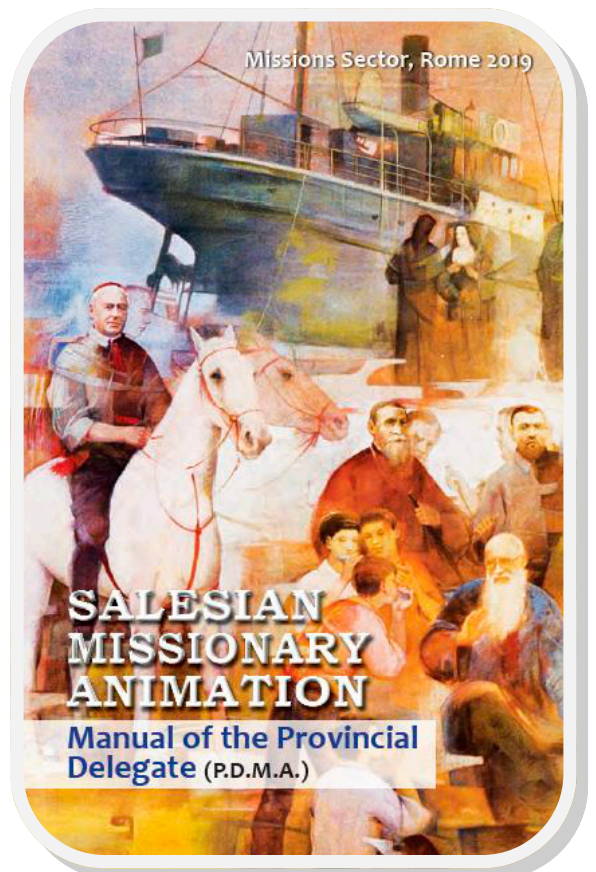
J. Basanes

管区宣教促進担当者の手引き

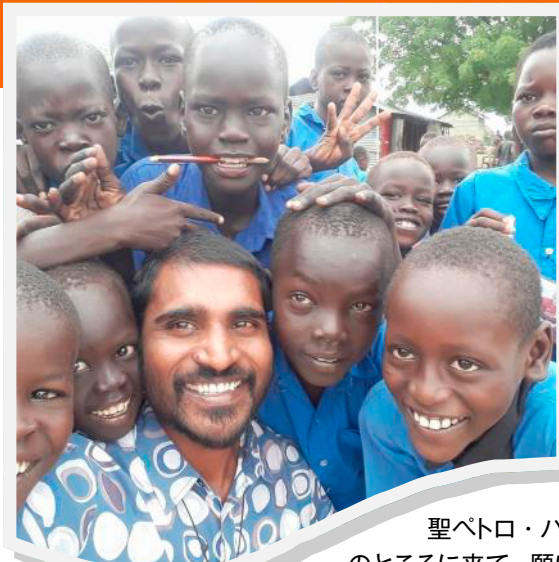
「管区宣教促進担当者の手引き」は、総長とその評議会により2017年1月26日、承認されました。そして2019年7月、「手引き」は宣教促進に役立つほかの重要な付録と共に、5か国語で出版されました：

- ドン・ボスコのサレジオ会員の**宣教のための養成**(2014)の文書。これはサレジオ会の内に宣教の熱意を生き生きと保つことを目指しています。修練準備期から生涯養成にかけて、使徒的情熱について教えています。
- サレジオの**宣教の聖性**。その模範に倣いたいと私たちに思わせる宣教師たちを紹介します。宣教へと促す志がいかに聖性の源泉であるかをみとめることは意義深いことです。
- 宣教グループ**は、青少年司牧のうちに、若者たち、教会共同体のうちに、宣教の火を生き生きと保たせます。小学校から大学のグループに至るまで、宣教促進の働きがなければなりません。
- 最後の章は、各管区の**サレジオ宣教ボランティア**の活性化における、管区宣教促進担当者に関わるいくつかの側面を取り上げます。言うまでもなく、手引き全体は活性化のための豊かな道具にもなるでしょう。

この手引きは、管区共同体、支部共同体の意識を高め活気づける継続的歩みのために、各管区の宣教促進担当者と宣教促進チームの役に立つでしょう。それぞれの共同体の内外で取り組みながら、より深い宣教の意識、内容や方法論における新たな奉仕を目指します。宣教促進は、一人ひとりのサレジオ会員とすべての教育司牧共同体のうちに宣教の熱意を生き生きと保たせ、宣教の文化を促進させることを目標とします。



「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された」



サ レジオ宣教の日2019の冊子の中で、インド・グワハティ管区(ING)出身の若いサレジオ会宣教師としてバピ・レディー神父が紹介されています。バピ神父は2017年、司祭に叙階されてすぐにウガンダ、パラベクの難民キャンプに開設されるサレジオ会の宣教拠点に送られました。現在は南スーダンで宣教師として働いています。

この短い間の難民キャンプでの体験は、強く、自分を豊かにしてくれるものでした。人々と共に座り、彼らの体験に心をゆさぶられ涙を流したこともありました。人々は食べ物も衣服もありません。キャンプの中で散り散りになっている子どもたちのことを心配しています。ここまで来る途中、亡くなった親族もいます。こういった話を聞くのはとてもつらかったです。

最も美しい体験は……キャンプに来て2か月たったころ、ある日曜日に、私たちが

聖ベトロ・パウロと呼ぶ小さな聖堂で30人に洗礼を受けました。ミサの後、一人の盲目の女性が私のところに来て、願いました。「神父様、お願いします、ヨハネ福音書を開いて、『神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された』と言っているところに下線を引いてくださいますか。」私は驚きました。その女性は

盲目で、読むことも見ることもできなかったのです。私は願いに応え、福音書を開き、その箇所の下線を引いてあげました。しばらくして、女性はその聖書を持って教会の入口へ行きました。ミサは終わっていたので、人々が通って行きました。女性は人々を呼びとめ、集まるよう通りかかったすべての人を招き、言いました。「神は独り子をお与えになったほど、世を愛されました」。人々は座って耳を傾け、その女性と話しました。それは私にとって、最も美しい体験の一つでした：その特別な日、女性が行ったのは、カテキズムを説き、より多くの人を神のもとへ導くことだったのです。人々はキャンプの中で、家族の問題から来る多くの精神的苦しみ、日々の闘いを抱えています。神について、ゆるし、愛について、誰かが語るなら…… 私はこの女性を見て、大きなインスピレーションをもらいました。彼女は盲目で、盲目の人がこのような素晴らしいことをするとは、私たちは予想しませんでした。この女性は神の力に満ち、巡り歩いて良い知らせを広めていたのです。

キャンプでの最も悲しい体験……キャンプに来て3か月半たったころ、私は若者のグループを作りました。その中の何人かに案内され、キャンプに着いたばかりの二人を見つけました。若い二人の少年は横たわり、服も着ておらず、住むところもありませんでした。私は尋ねました。「何があったの？ 二人はどうしてこんな状態なの？」「神父様、二人には家族がいません。森の中を二日間歩いてここに来たんです。食べ物もないし、服もないし、実際、死にかかっています。」私は近づき、座り、涙をとめることができませんでした。どうしていいかわかりませんでした。私はすぐに家に戻り、二人に食べ物を持って行きました。服を持って行って少年たちにあげました。二人がおびえていて、心を閉ざしているのがわかりました。私は座り、彼らに耳を傾け、話しかけました。

二人がどのようにして戦争から、南スーダンの状況から逃れてきたか、どのようにしてここにたどり着いたか、その話に耳を傾けながら、本当にどうしたらいいかわかりませんでした。私は座って泣いていました。しばらくすると、二人は言いました。「神父様、ありがとう、来てくれてありがとう。神父様は、神様に代わってぼくたちを助けるために来てくれた。」私は心を揺さぶられました。この悲劇的でありながら美しい体験は、若者たちとの絆を強める助けになりました。今、私がキャンプの中を回っていると、若者たちは私に呼びかけます。「アブーナ、こんにちは！ やあ、アブーナ！ 来て、来て！」彼らの言葉を覚えたことをうれしく思っています。私は人々の言葉でミサをささげます。基本的な会話ができます。何よりも、心からの対話ができるのです。

インド出身、南スーダンの宣教師 バピ・レディー神父, SDB



サレジオの宣教の聖性のあかし

サレジオ会列聖申請人 ビエルルイジ・カメローニ神父

8月25日に天国における誕生50周年を迎える福者マリア・トロンカッティ(1883 - 1969)は、このように祈りました：「主よ、私は永遠にあなたのものでありたい。おお、イエスよ、私は最愛のすべてのものを後にし、あなたに仕え、自分の魂を聖化するために来ました。そうです、すべてを棄てました。今、こうしてはじめてあなたは私と共におられます、あなたがおられれば、私には十分です。イエスよ、あなたが呼んでくださった身分において私がとても善いものとなり、堅忍しますように。いつも忠実にあなたに仕えさせてください！ ただあなたのものであるために、すべての人に忘れ去られますように。あなたの小さな飾り石になるために、すべてから遠ざかりますように……私に大きな愛、犠牲と謙遜、自己放棄の惜しみない精神をお与えください、多くの靈魂の善益の道具となるために。」

アジアの家庭のために



サレジオ会の宣教の意向

家庭が、祈りと愛の生活によってますます「人間として成長する実習室」となりますように。

アジアにおけるサレジオの存在は、主の祝福を受けてきました。32か国に600近い若々しい共同体があります。アジアのドン・ボスコが、これからも家族的精神を広め、人としての成長の、またキリスト者としての生き方の源泉となる、しっかりとした家庭を促進するよう、祈りましょう。

